【特 集】女性外科医師の進出をめぐって(第30回学術集会ワークショップ3)

4. 女性外来の開設と女性乳腺外科医の需要

社会保険久留米第一病院外科, 同婦人科*, 矢永クリニック**

田 中 眞 紀   金 子 祐 子   山 口 美 樹
竹 中 美 貴   佐 藤 郷 子   磯 辺   眞
友 成 美 鈴*   津 田 英 照   矢 永 博 子**

A medical Examination and Treatment for a Woman and a Demand of a Woman Surgeon for a Breast Disease

Maki TANAKA, Yuko KANEKO, Miki YAMAGUCHI,

Miki TAKENAKA, Kyoko SATO, Makoto ISOBE,

Misuzu TOMONARI, Hideaki TSUDA and Hiroko YANAGA

Department of Surgery, Social Insurance Kurume Daiichi Hospital

Department of Gynecology, Social Insurance Kurume Daiichi Hospital*

Department of Plastic surgery, Yanaga Clinic**

女性外来は多くの女性の共感を得て増加傾向を示しているが, 更年期などの不定愁訴を主訴とする患者と羞恥心から女性医師の希望して受診する患者の二つに大別される。外科系の女性医師は羞恥心を持って受診する患者に関わることが多くなかでも乳腺診療は需要が大きい。今後女性医師の増加に伴い女性医療はますます充実すると思われる。

索引用語: 女性診療科(Department of a Woman medical examination and treatment), 女性外科医師(Woman surgeon), 乳腺外科(Breast surgery)

はじめに

女性外科医師の進出について外科勤務医として25年の経験を基に女性外来, 乳腺診療の面から検討する。

1. 女性外来の開設

女性スタッフによる診療を求める声が多くなったのを機に平成14年7月に女性外来が開設され毎週水曜日午後診療を行っている。現在は外科(5名)・婦人科(2名)・泌尿器科(1名)・内科

(4名: 一般, 内分泌, 呼吸器, 消化器)の12名の女性医師が交互に8室を使用して診察するのをはじめとして, 受付・検査技師・放射線技師など関わるスタッフは全て女性が担当している。受診者は増加傾向を示し平成16年4月から平成17年4月の間に2,496人, 一日平均66人の患者が受診した(図1, 2)。更年期症状など同性として共有した悩みをかかえる患者への対応も好評であるが, 乳腺・肛門・婦人科・泌尿器科といった羞恥心をもつような診療科への受診希望も多い。初診診療科の割合は婦人科46.3%, 乳腺32.3%, 内科

Fig. 1 A change of the number of patients
(Department of a woman medical examination and treatment)

Fig. 2 A change of the number of patients according to a woman medical examination and treatment department

16.1%, 泌尿器科 4.8%であった。その中で外科医が取り扱った疾患は乳腺 74%, 肛門 4%, その他 24%であり, その他の多くは鼠径部・陰部といった診察されるのに恥ずかしいと思われる部位の疾患であった (図3)。

2. 女性外科医の需要

乳腺外来は化学療法を行う患者の増加や予後が良いために術後患者が蓄積され, 定期的経過観察や再発後の長期間の治療など外来診療に要する時間が長い。平成 16 年 1 月から 12 月の間に外来新患 3,056 例, 意識下に行うマンモトームなどの組織検査 88 例, 手術 287 例(乳癌症例 198 例)であったが大多数を女性医師で対応していた(図4)。入院患者では若い患者や神経質な患者また再発患者

や末期癌患者を担当した。乳癌検診や術後再来患者の診察は外科医が全員で行ったが特に検診では女性医師を希望する患者が多かった。

3. 考 察

同性による診察を希望する患者が多くなり全国に女性外来が開設されるようになってきた。当院の患者動向をみると初診は婦人科に次いで外科への受診者が多く, 外科は 74%が乳腺疾患であった。また症例数は少ないが尿失禁も深刻な悩みとして泌尿器科も欠かせなかった。延べ数からみると数回にわたる診察が必要な内科や婦人科への受診者が多く, とくに内科が対応する更年期症状などの不定愁訴には一回の診察に長時間を要した。このように女性外来を受診する患者は更年期など

4. 女性外来の開設と女性乳腺外科医の需要

The medical examination and treatment course which performed the first examination   The disease that a surgeon examined

Fig. 3 A work of a surgeon in a department of a woman medical examination and treatment

2005.1.1~12.31

	number of patients
new patients	3056
follow up of breast cancer patient	4551
screening	4281
mammotom&CNB	88
operation	287

Specialist:1 Recognized doctor:3

Fig.4 outpatient department of breast disease

□ woman doctor went chiefly.

2002:Data base ofThe Ministry of Health, Labour and Welfare

Fig. 5 Compared with man and woman in 1980 and 2002

2002: Data base of The Ministry of Health, Labour and Welfare

Fig. 6 Compared with surgeon master's man and woman
(The main diagnosis and treatment department)

の不定愁訴を主訴とする患者と羞恥心から女性医師を希望する患者の二つのパターンに分かれている。羞恥心の点から外科医、婦人科医、泌尿器科医といった外科系女性医師の存在は大きく、今後は肛門外科や大腸検査を行う女性医師が増えると患者にとってもっとメリットが大きいのであろうと思われる。

当院の女性外来は常勤医師7名と非常勤医師5名の計12名の女性医師が従事しているが、非常勤医師の中には女性医療に賛同し希望して参加している者もあり、医師の立場として女性医療は働く意義を見出せる領域になっているようである。

乳腺診療は乳腺外来以外に検査・手術・化学療法・緩和治療・検診など多岐にわたっているがその多くを女性医師が対応し、とくに外来では女性医師を希望する患者が多かった。このように女性外科医師の働く場所は増えており需要も年々増え続けている。

平成14年厚生労働省データベースによると筆者が外科医師となった昭和55年と平成14年を比較して、医師数は15万6千人から26万2千人に増加し女性の比率も10%から15.7%に増加していた。とくに平成14年には39歳までのうち20%、29歳まででは33%が女性であった(図5)。

主たる診療科を外科としていたのは249,574人中23,868人(9.5%)、平均年齢は47.4歳で男性47.9歳、女性33.8歳であった。女性は外科医師全体の23,868人中942人(3.9%)で、34歳までが68.1%、39歳まででは83.0%を占めていた(図6)。

当院には外科医師が8名勤務しているが常勤6名、非常勤2名で女性外科医師は常勤3名、非常勤2名の計5名であり、年齢は50歳代1名、40歳代1名、30歳代2名、20歳代1名で既婚者が4名、育児経験者3名である。女性外科医師が多いのは、乳癌症例が多い、女性外来の存在、定例手術は多いものの救急指定病院ではないことに加え幼稚園と提携した託児所の設置や当直室・更衣室整備など働きやすい環境が整いつつあることも理由にあげられる。

10年後には勤務医の約半数を女性医師が占めると予想されているが、女性医師の需要は確実に大きくなると思われる。そのためには専門性を持ち仕事を継続するモチベーションを持つことが重要である。また出産後に安心して働ける託児所の設置、復職可能なシステム、非常勤医師を含めたフレックスタイム制勤務の導入などが望まれる。これらが女性外科医師の進出につながると考える。